

令和元年度第2回岡山県自立支援協議会医療的ケア児等支援部会議事概要（要旨）

- 1 日時 令和2年2月10日（月）
- 2 場所 ピュアリティまきび3階「橘」
- 3 時間 13:00～15:15
- 4 参加者 委員19名中14名出席
※欠席：鷲尾委員、中村委員（特別支援教育課）、下野間委員（医療推進課）、山野井委員（健康推進課）、桑原委員（子ども未来課）
※代理出席3名：特別支援教育課：清岡総括副参事、医療推進課：時間副課長、健康推進課：國富総括参事

5 協議・報告

（1）障害福祉計画及び障害児福祉計画に係る基本指針の見直し（厚生労働省社会保障審議会障害者部会抜粋）・（2）第5期岡山県障害福祉計画・第1期岡山県障害児福祉計画（重症心身障害児・医療的ケア児への支援関係）の進捗状況について（障害福祉課）

（委員からの主な意見等）

- ・利用者の立場からすると、看護師による支援であると信頼できる。しかし、実態として看護師は不足している。潜在看護師などの活用も進めてもらいたい。
- ・相談支援専門員がコーディネーターとして地域で活動が続けられるようバックアップ（対策）が必要であるとともに、地域に相談支援専門員と保健師等が連携できる協議の場が必要だ。
- ・医療型児童発達センターの整備を進めてもらいたい。最も児の数が多い岡山市に確保が必要だ。
- ・医療的ケア児等コーディネーターについては市町村や地域で活躍してもらえよう、協議の場、仕組づくりを進めてほしい。

（3）令和元年度医療的ケア児等コーディネーター養成研修の実施状況について（障害福祉課）

- ・特記事項なし。

（4）医療型短期入所の利用状況調査結果と今後の取組予定について（障害福祉課）

（委員からの主な意見等）

- ・利用者側からはいつもの主治医がいる病院と違う病院を利用することにためらいがある。受入れ側の病院にも医療的ケア児の受入れに抵抗があることから短期入所の利用がうまくマッチングしていない状況もある。相談支援専門員がマッチングをコーディネートする仕組が必要である。
- ・重度の児、歩ける児の受入れが困難な事例が多く見受けられるなど、制度がうまく活用されていないところが課題である。
- ・病院側からすると、医療的ケア児等の受入れには一般入院より慎重な対応が求められる。病院向けに研修等も必要ではないか。
- ・医療型短期入所で昨年度1回も利用されていない病院があるのであれば、原因を調べて解消してもらいたい。
- ・いきなり受入れをお願いするのではなく、事前に対象者の生活状況等を病院側に理解してもらう仕組づくりも必要かと思う。

（5）小児訪問看護拡充事業について（医療推進課）

- ・特記事項なし